

ナシ栽培におけるせん孔性害虫ヒメボクトウの防除法



農業総合センター園芸研究所

近年、茨城県内のナシ産地では、せん孔性害虫であるヒメボクトウ幼虫による被害が拡大しています（図1）。ヒメボクトウ幼虫は、集団で樹幹内部に食入し、被害が進むとナシ樹が衰弱・枯死して、果実生産性を低下させます。しかし、通常の薬剤散布では樹幹内部に食入した幼虫の防除は困難です。そこで、天敵線虫殺虫剤の樹幹注入とフルベンジアミド水和剤の散布による防除法を確立しました。



図1 ヒメボクトウ幼虫による食入被害樹(左)と内部食入孔および幼虫(右)

天敵線虫殺虫剤の樹幹注入による食入幼虫の防除

天敵線虫殺虫剤（スタイナーネマ・カーポカプサエ剤、商品名：バイオセーフ）の樹幹注入は、処理後のフラス（虫糞+木屑）の排出が低減されることから、幼虫による食害を防止する効果があります（図2）。樹幹注入は、6月上旬の1回処理よりも、6月上旬と9月中旬の年2回処理の方が効果的です。

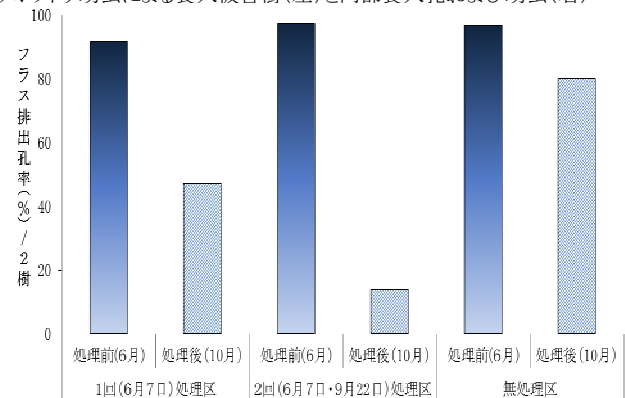


図2 天敵線虫殺虫剤の処理時期と防除効果

フルベンジアミド水和剤の樹幹散布による食入抑制

7月中旬または8月上旬にフルベンジアミド水和剤（商品名：フェニックスフロアブル）を散布することにより、孵化幼虫の新たな食入を抑制することができます（図3）。

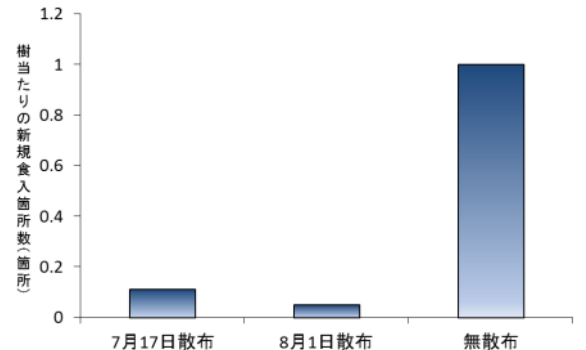


図3 フルベンジアミド水和剤散布による孵化幼虫の食入抑制効果

天敵線虫殺虫剤とフルベンジアミドを併用した防除

天敵線虫殺虫剤の樹幹注入とフルベンジアミド水和剤の散布を併用することにより、被害樹率を低減できます（図4）。この防除法を複数年実施することにより、ヒメボクトウ幼虫による食入被害を大幅に軽減することができます。

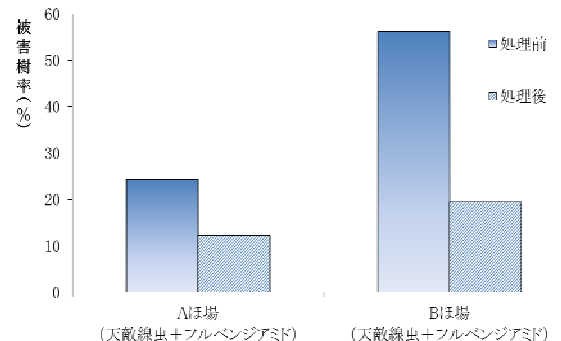


図4 天敵線虫殺虫剤とフルベンジアミド水和剤の併用による防除効果

活用上の留意点

- 1)天敵線虫殺虫剤は、蓄圧式噴霧器を使用して樹幹内部の幼虫まで薬液が届くように十分量を丁寧に注入する。
- 2)フルベンジアミド水和剤は、薬液が樹幹にも十分付着するように丁寧に散布する。
- 3)本種は幼虫期間が3年程度と考えられるため、被害を軽減するためには複数年継続して防除を実施する必要がある。